

1 関 皓介 チェロ 北林 聖子 ピアノ



**交響的変奏曲 Op.23** 作曲/ポール・ボエルマン  
Variations symphoniques pour violoncelle et orchestre, Op.23 / L.Boëllmann (1862-1897 フランス)

本作《交響的変奏曲》は、荘重で印象的な主題をもとに、多彩な変奏が展開されるオルガン作品です。変奏ごとにリズムや和声、響きの重なりが巧みに変化し、オーケストラを思わせる立体的で色彩豊かな音楽が広がります。静謐で内省的な場面から華やかで壮大なクライマックスへと至る構成は、「交響的」という題名にふさわしいスケール感を備え、フランス・ロマン派特有の叙情性と構築美を鮮やかに伝えます。

〔プロフィール〕九州国際大学付属高等学校出身。チェロを吉長孝穂氏に師事。

2 藤元 惇 ピアノ



**《前奏曲集 第1巻》より 第10曲 沈める寺、第12曲 ミンストレル**  
《Préludes, Livre I》La cathédrale engloutie, Minstrels / C. Debussy (1862-1918 フランス) 作曲/C.ドビュッシー

ドビュッシー《前奏曲集》は、標題を手がかりに多彩な情景を描いた作品集で、独創的な和声と豊かな音色が特徴です。今回は第10番《沈める寺》と第12番《ミンストレル》を演奏いたします。第10番《沈める寺》はブルターニュ地方のイス伝説に着想を得た幻想的な作品で、静寂な海底から大聖堂が浮かび上がり、鐘の響きを思わせる重厚な和声とともに、再び海へ沈んでいく情景が描かれます。第12番《ミンストレル》は当時流行したミンストレル・ショーを題材に、跳ねるリズムと皮肉なユーモアで滑稽な人物像を描いた一曲です。雰囲気全く異なる二つの世界を思い描きながらお聴きください。

〔プロフィール〕第一学院高等学校出身。ピアノを末永雅子、中所優子の各氏に師事。

3 船田 涼 サクソフォン 片山 敦子 ピアノ



**サクソフォン協奏曲** 作曲/H.トマジ  
Concerto pour saxophone alto et orchestre / Henri Tomasi (1901-1971 フランス)

アンリ・トマジが作曲した《アルト・サクソフォン協奏曲》は、サクソフォンの豊かな表現力を存分に味わえる作品です。哀愁を帯びた美しい旋律と躍動感あるリズム、色彩感あふれるオーケストラが一体となり、独奏楽器の歌うような魅力と華やかな技巧を引き立てます。ジャズを思わせる自由さとフランス近代音楽特有の洗練された響きが融合し、情熱的な高まりと静かな叙情が交錯する音楽世界が広がります。サクソフォンの魅力を幅広く伝える、20世紀を代表する協奏曲のひとつです。

〔プロフィール〕広島市立沼田高等学校出身。サクソフォンを宮田麻美、上田啓二の各氏に、室内楽を上田啓二氏に師事。

4 濱家 颯太 トランペット 増野 雅美 ピアノ



**トランペット、ピアノと弦楽のためのコンチェルティーノ** 作曲/A.ジョリヴェ  
Concertino pour trompette, piano et cordes / Andre Jolivet (1905-1974 フランス)

トランペット、ピアノと弦楽のためのコンチェルティーノは、アンドレ・ジョリヴェが1948年に作曲した曲です。この曲は、珍しい編成が特徴的で、ピアノは単なる伴奏ではなく、重要な役割を担っています。また、単一楽章の中で、4つのセクションに分かれています。トランペットの持つ表現の可能性を大きく広げた作品であり、その挑戦的な内容から、現在でも世界中のトランペット奏者に愛奏されている作品です。

〔プロフィール〕広島県立西条農業高等学校出身。トランペットを白石実、村上俊也の各氏に師事。

5 若林 優香 マリンバ 久保 綾香 ピアノ



**マリンバ協奏曲** 作曲/S.ゴロフコ  
Concerto for Marimba / Sergei Golovko (1959- ウクライナ)

Sergei Golovkoはロシア出身の打楽器奏者・作曲家。《Concerto for Marimba》(2008)は、西洋的形式に東欧的旋法とマリンバの豊かな音色を融合させた代表作である。第1楽章はロシア/ウクライナの戦争と伝説を背景に力強く展開し、第2楽章では古い民謡をもとに痛みと平和への祈りを叙情的に描く。終楽章は春の祭り「マスレニツァ」の祝祭を表し、舞曲的なリズムとともに希望に満ちたクライマックスへ導く。技巧性と民族的感情が融合したマリンバ協奏曲である。

〔プロフィール〕出雲北陵高等学校出身。打楽器、マリンバを福岡史子、山澤洋之の各氏に師事。第34回日本クラシック音楽コンクール全国大会出場。

6 渡辺 美陽 ベース 土井 咲也 キター 黒沢 亮 キーボード 山口 陵 ドラムス



**Interludio Aprieta At the Edge** 作曲/V.ガルシア  
Interludio, Aprieta, At the Edge / Vincen Garcia (1995- スペイン)

Vincen Garciaは現代的なジャズ/ファンクを軸に、グルーヴと歌心を両立させた音楽性が魅力のベーシストです。「Interludio」は浮遊感のある和声と繊細なフレーズが印象的なインストゥルメンタル。「Aprieta」はラテンの要素を感じさせるリズムとタイトなグルーヴが特徴的な楽曲です。「At the Edge」は緊張感と開放感が交錯する展開の中で、各パートの表情豊かなアンサンブルを楽しめる一曲です。

〔プロフィール〕さくら国際高等学校出身。在学中、ジャズピアニスト大林武司氏、L.ギレスピー氏と共演。ベースを中野力氏に師事。

7 中村 杏実 トランペット 久保 綾香 ピアノ



**トランペット協奏曲 Op.42** 作曲/E.タンベルク  
Concerto per tromba e orchestra, Op.42 / Eino Tamberg (1930-2010 エストニア)

エストニアの作曲家エイノ・タンベルクが1972年に作曲し、20世紀後半の緊張感ある時代背景のもとで生まれた作品です。明快な響きの中に不安や皮肉、内省的な表情などが織り込まれており、現代的な感覚を強く感じさせます。この協奏曲は、全3楽章から構成されており、第1楽章では鋭いリズムと緊張感のある音楽が展開され、第2楽章では静かで内省的な表情が前面に現れます。そして、第3楽章では再び動きのある音楽となり、明るさと緊張感が交錯しながら作品が締めくくられます。今回はその中から、第1、3楽章を演奏いたします。

〔プロフィール〕山口県立防府西高等学校出身。トランペットを白石実、村上俊也の各氏に師事。第38回中国ユース音楽コンクール最優秀賞。第6回Kトランペットコンクール第2位。

8 湊 勇翔 ユーフォニアム 増野 雅美 ピアノ



**ユーフォニアム協奏曲** 作曲/P.ミーラー  
Concerto for Euphonium / Paul Mealar (1975- イギリス)

この曲は、イギリス出身のユーフォニアム奏者 デイヴィッド・チャイルズ のために作られた協奏曲です。18世紀後半にゲール語で書かれた詩 Fear a' Bhàta をモチーフに、漁に出たまま戻らない夫を想う妻の心情が描かれます。妻の視点から、深い悲しみと絶望、そして再会を願う希望へと感情が移ろい、物語のように音楽が展開します。温かく豊かな響きに、輝かしい高音や高度な技巧が織り込まれ、ユーフォニアムの魅力を存分に味わえる作品です。

〔プロフィール〕広島県瀬戸内高等学校出身。齋藤充氏、スティーブン・ミード氏のマスタークラスを受講。ユーフォニアムを正田律子氏に、室内楽を白石実氏に師事。